

子どもゆめ基金助成活動

全国まちづくり 若者サミット YOUTH SUMMIT 2023

事業報告書

こんな人、集合

誰かの役に立ちたい。何か面白いことをしたい。とにかく住んでいる街が好き。
街にはいろいろな人がいます。

元気に活動している人も立ち止まっている人も、おしゃべりにきませんか。
街をデザインすることって、きっと誰かとの会話から始まるんです。

2023年2月11日(土)～12日(日)

会場：日本青年館8階会議室 / オンライン配信

対象：地域活動に取り組む若者、これから取り組んでみたい方、応援したい方、
関心がある方・行政・大学・企業・NPOなど100名程度

主催：一般財団法人日本青年館

協力：日本青年団協議会

日本青年館100周年記念誌

～若者と歩み、人々が集い、文化を紡いだ一世紀～

発売中!



【定価】5,000円(税・送料別)
 【体裁】A4判/272ページ、
 一部カラー

この記念誌は、三代にわたって日本青年館が取り組んだ公益事業やホテル、ホール、清溪の運営等々、一世紀に及ぶ私たちの歴史を編纂したものです。

【お申込み先】日本青年館公益事業部事業課

【TEL】03-6452-9012 【FAX】03-6452-9026 【Email】koueki@nippon-seinenkan.or.jp

◎必要事項をご記入いただき、下記までお申込みください。

【お申込み先】(一財)日本青年館公益事業部事業課

【TEL】03-6452-9012 【FAX】03-6452-9026 【Email】koueki@nippon-seinenkan.or.jp

申込書	日本青年館100周年記念誌 ～若者と歩み、人々が集い、文化を紡いだ一世紀～		冊	この欄には記入しない下さい。
	お名前	電話番号		
	ご住所	ご所属	Email	

はじめに

「全国まちづくり若者サミット2023」が2月11日・12日の二日間にわたって開催されました。コロナ禍により、2年間にわたって全面オンラインでの開催を余儀なくされていた標記事業は、今年ようやく対面での開催を実現しました。

今年度は13団体が実践事例を発表しました。報告された実践はいずれも示唆に富んでおり、熱量の高さとも相まって参加者にとって大きな学びと励みになりました。また、トークセッションとは別に、講演やシンポジウムなど新たなプログラムも取り入れたほか、オンライン配信や交流会の企画・運営を若者・学生団体にご協力いただくなど、若者自身の事業への参画をより一層拡大したことも特徴でした。

地方創生と政治参加という時代の流れとともに始まった若者サミットには、回数を重ねるごとに多様な地域課題や実践が持ち込まれています。と同時に、いくつかの共通する課題も見えてきました。

ひとつは団体の継続性や行政との関係、活動拠点づくりといった地域活動を行う上での諸課題です。これらについて日本青年館は、サミットの到達点や課題をもとに『わたしたちが変える ～若者によるまちづくり実践事例集』を発刊させました（下記QRコード）。年ごとの報告書とあわせて、こちらもぜひご参照いただければ幸いです。

もうひとつは、若者サミット後も継続する関係づくりです。これはプログラムの企画運営に若者や学生が関わる部分をより多くするとともに、出合いや学び、交流や発信といった日本青年館のプラットフォームとしての役割をどのようにバージョンアップさせていくかを模索しなければなりません。

地域課題はますます深刻かつ複雑になりながらも、若者や学生たちによる取り組みもまたいっそう幅広く繰り広げられています。ここに、新たな地域社会を拓く一筋の光明を見る思いは多くの方々と分かちあえるはずです。引き続き、若者たちの取り組みへのご支援とご協力をお願い申し上げ、終了にあたってのご挨拶といたします。

一般財団法人日本青年館



開催概要

- 事業名：子どもゆめ基金助成活動
全国まちづくり若者サミット2023
- 期 日：2023年2月11日（土）～12日（日）
- 会 場：日本青年館8階／オンライン配信
- 参加者数：99名
- 主 催：一般財団法人日本青年館
- 協 力：日本青年団協議会
- 運営体制：コメンテーター
井口啓太郎（国立市公民館社会教育主事）
岡下 進一（元日本青年団協議会会長）
奥 ちひろ（(特非)秋田県南NPOセンター職員）
島田 茂（元日本YMCA同盟総主事）
辻 智子（北海道大学准教授）
前田 昇（(特非)本の学校副理事長）
zoom 配信運営
多摩市若者会議 合同会社 Michi Lab
交流会企画運営
学生団体 YUZU
- 協 賛：倉吉市議会 大月 悦子
(敬称略) 名寄市立大学 大坂 祐二
北九州市立大学大学院 四ヶ所壮汰
合同会社 Michi Lab 高野 義裕
魚沼若者会議 津山 千穂

日程

2月11日（土）

時間	内 容
12:30	開会式 主催者あいさつ 佛木 完（日本青年館常務理事） 課題の提起 辻 智子（北海道大学准教授） 諸説明 進行：田中 潮（日本青年館）
13:00	講演 「お手伝い(仕事)×旅で、地域のファンづくりを」

	講師：永岡 里菜さん（株おてつたび 代表取締役CEO） 司会：澁谷 隆（日本青年館）
14:15	休憩
14:30	トークセッション1 「若者が育つ地域とは」 発表：ひたち若者かがやき会議（茨城県日立市） 富田林市若者会議（大阪府富田林市） 小川町若者未来会議（埼玉県小川町） 日野町連合青年会（滋賀県日野町） コメント：奥 ちひろ（(特非) 秋田県南NPOセンター職員） 辻 智子（北海道大学准教授） 進行：田中 潮（日本青年館）
16:15	休憩
16:30	トークセッション2 「若者が描くまちの未来」 発表：とよかわっしょい（島根県益田市） 未来守（東京都昭島市） Rural labo コメント：前田 昇（(特非) 本の学校副理事長） 島田 茂（元日本YMCA同盟総主事） 進行：田中 潮（日本青年館）
18:00	休憩
18:30	夕食交流会 「地域と人が大好きな人へ贈る ～ツナガル・サミット交流会 2023@YUZU～」 進行：学生団体YUZU
20:30	終了

2月12日（日）

時間	内 容
9:00	シンポジウム：ユースワークってなに？ ～若者の社会参画でなにがかわる？ 青年団・ユースカウンスルの実践～ 発表：尼崎市立ユース交流センター（兵庫県尼崎市） （公財）京都市ユースサービス協会（京都府京都市） 川根町青年団（静岡県島田市） コーディネーター：辻 幸志（(特非) こうべユースネット理事長） 進行：鳥澤 文彦（日本青年館）

10:30	休憩
10:45	<p>トークセッション3 「集まる場所のつくり方」</p> <p>発表：多摩市若者会議「未知カフェ」（東京都多摩市） 一般社団法人NELD「夢畑（タカラバコ。）」 （神奈川県横須賀市） 国立市公民館青年室事業「コーヒーハウス」（東京都国立市）</p> <p>コメント：井口 啓太郎（国立市教育委員会） 岡下 進一（元日本青年団協議会会長）</p> <p>進行：鳥澤 文彦（日本青年館）</p>
12:15	休憩
13:15	<p>クロージングセッション</p> <p>二日間のサミットを振り返り、それぞれの違いを今後の活動に活かすため、対話を通じて学びを持ち帰る。</p> <p>進行：辻 智子（北海道大学准教授）</p>
14:45	終了

※各セッションおよびシンポジウムで発表されたプレゼン資料は右記QRコードよりご覧ください。



全国まちづくり若者サミット2023
参加者名簿

No	所属	名前	都道府県	市町村	参加形態
1	名寄市立大学	大坂 祐二	北海道	名寄市	対面参加
2	宮城県蔵王町教育委員会生涯学習課	梶原 一貴	宮城県	蔵王町	対面参加
3	秋田県若者会議ネットワーク	中嶋 結也	秋田県	秋田市	対面参加
4	南陽市教育委員会社会教育課	嵐田 紗香	山形県		対面参加
5	南陽青年団	小澤 光希	山形県	南陽市	対面参加
6	南陽青年団	高橋 伸義	山形県	南陽市	対面参加
7	南陽青年団	小関 崇	山形県	南陽市	対面参加
8	南陽青年団	小田 朝暉	山形県	南陽市	対面参加
9	南陽青年団	皆川 拓海	山形県	南陽市	対面参加
10	南陽青年団	高橋 宏美	山形県	南陽市	対面参加
11	南陽青年団／南陽市社会教育課	高橋 周平	山形県	南陽市	対面参加
12	ひたち若者かがやき会議	新妻 幹生	茨城県	日立市	対面参加
13	ひたち若者かがやき会議	小泉 冬萌	茨城県	日立市	対面参加
14	ひたち若者かがやき会議	松村 泰葉	茨城県	日立市	対面参加
15	ひたち若者かがやき会議	石井 郁弥	茨城県	日立市	対面参加
16	ひたち若者かがやき会議	木村 和也	茨城県	日立市	対面参加
17	日立市生活環境部女性若者支援課	大内 弓子	茨城県	日立市	対面参加
18	日立市生活環境部女性若者支援課	下田 恭子	茨城県	日立市	対面参加
19	学生団体YUZU	竹村 陽日	埼玉県	富士見市	対面参加
20	小川町若者未来会議	森下 文乃	埼玉県	寄居町	対面参加
21	小川町若者未来会議	木谷 海斗	埼玉県	小川町	対面参加
22	小川町若者未来会議	横田 海	埼玉県	小川町	対面参加
23	小川町若者未来会議	吉田瀬里菜	埼玉県	小川町	対面参加
24	小川町若者未来会議	高野 旨央	埼玉県	東秩父村	対面参加
25	小平市役所（東京都）	坂井 里菜	埼玉県	富士見市	対面参加
26	日本青年団協議会	可部 絢子	埼玉県	さいたま市	対面参加
27	CRENECTION	鈴木 杏実	千葉県	我孫子市	対面参加
28	学生団体YUZU	椿 卓己	千葉県	習志野市	対面参加
29		胡 多巻	東京都		対面参加
30		嘉本 進	東京都	国分寺	対面参加
31	Rural labo	村上 悠剛	東京都	板橋区	対面参加
32	とよかわっしょい!!	小野 涼太	東京都	板橋区	対面参加
33	ねつせた!	福井 莉緒	東京都	板橋区	対面参加
34	はちおうじ若者会議	檜島 杏奈	東京都	立川市	対面参加
35	学生団体YUZU	大原 一	東京都		対面参加

全国まちづくり若者サミット2023
参加者名簿

No	所属	名前	都道府県	市町村	参加形態
36	学生団体YUZU	星 悠也	東京都	江戸川区	対面参加
37	学生団体YUZU	鈴木 悠里	東京都	八王子市	対面参加
38	株式会社ぎょうせい	長尾 祐子	東京都		対面参加
39	荒川区青年団体連合会	石川季代美	東京都	荒川区	対面参加
40	合同会社MichiLab(多摩市若者会議)	高野 義裕	東京都	八王子市	対面参加
41	国立市教育委員会 国立市公民館	針山和佳菜	東京都	国立市	対面参加
42	多摩市若者会議	井須 良麦	東京都	江戸川区	対面参加
43	多摩市若者会議	牧野 淳史	東京都	江戸川区	対面参加
44	多摩市若者会議	加藤 利樹	東京都	多摩市	対面参加
45	多摩市若者会議	西山なつ美	東京都	多摩市	対面参加
46	多摩市若者会議	山口 健太	東京都	八王子市	対面参加
47	多摩市若者会議	浅野 有咲	東京都	八王子市	対面参加
48	町田市議会	吉田つとむ	東京都	町田市	対面参加
49	東京都多摩市役所	原田 正樹	東京都	江東区	対面参加
50	日本青年団協議会	山田 仁哉	東京都	板橋区	対面参加
51	日本青年団協議会	氏家 秀徳	東京都	文京区	対面参加
52	未来守	福島 花凜	東京都	昭島市	対面参加
53	未来守	宇佐原嘉晃	東京都	昭島市	対面参加
54	未来守	谷川 恋彩	東京都	八王子市	対面参加
55	未来守	尾形 侑哉	東京都	福生市	対面参加
56	CRENECTION	城田 空	神奈川県	横浜市	対面参加
57	一般社団法人NELD	三田希美子	神奈川県	横須賀市	対面参加
58	一般社団法人NELD	戸井 貴久	神奈川県	逗子市	対面参加
59	一般社団法人Teena Light	山辺 雄翔	神奈川県	相模原市	対面参加
60	学生団体YUZU	大熊 凜	神奈川県	川崎市	対面参加
61	多摩市若者会議/はちおうじ若者会議	相田 雅貴	神奈川県	厚木市	対面参加
62	南陽市青年団(神奈川県警察)	皿谷 倭也	神奈川県	平塚市	対面参加
63	日本都市青年会議	中野 啓一	神奈川県	平塚市	対面参加
64	静岡県青年団連絡協議会	杉山 和義	静岡県	島田市	対面参加
65	日野町連合青年会	吉村慎太郎	滋賀県	日野町	対面参加
66	日野町連合青年会	間瀬 克	滋賀県	日野町	対面参加
67	(公財)京都市ユースサービス協会	竹久 輝顕	京都府	京都市	対面参加
68	富田林市教育委員会 生涯学習課	井関 貴央	大阪府	富田林市	対面参加
69	富田林市教育委員会 生涯学習課	泉井 直哉	大阪府	富田林市	対面参加
70	富田林市若者会議	木本 舞	大阪府	富田林市	対面参加

全国まちづくり若者サミット2023
参加者名簿

No	所属	名前	都道府県	市町村	参加形態
71	富田林市若者会議	渋川千栄子	大阪府	富田林市	対面参加
72	尼崎市立ユース交流センター	片岡 一樹	兵庫県	尼崎市	対面参加
73	北九州市立大学大学院	四ヶ所壮汰	山口県	下関市	対面参加
74	株式会社ぎょうせい	長尾 康孝			対面参加
75	城西国際大学	金子 祐介			対面参加
76		林 哲也			対面参加
77		柄津真寿美			対面参加
78	東洋大学	カラツバ・オリガ	ウクライナ	キーウ	対面参加
79	(特非) こうベユースネット	辻 幸志	兵庫県	神戸市	講師
80	東北芸術工科大学	齋藤 愛彩	山形県	山形市	運営
81	多摩市若者会議	伊藤 千夏	東京都	多摩市	運営
82	多摩市若者会議	高橋 菜緒	東京都	多摩市	運営
83	多摩市若者会議	神崎 智大	東京都	八王子市	運営
84	多摩市若者会議	小山 舞子	東京都	品川区	運営
85		筒井 涼斗	神奈川県	横浜市	運営
86	日本青年団協議会	佐久間祥平	宮城県	角田市	オンライン
87	秋田県湯沢市役所	小野塚真美	秋田県	湯沢市	オンライン
88	壬生町議会	小牧 敦子	栃木県	壬生町	オンライン
89	魚沼若者会議	津山 千穂	新潟県	魚沼市	オンライン
90		香水 淳次	滋賀県	長浜市	オンライン
91	日本青年団協議会	藤原 麻美	滋賀県	高島市	オンライン
92	NPO法人bankup	中川 玄洋	鳥取県	鳥取市	オンライン
93	倉吉市議会	大月 悦子	鳥取県	倉吉市	オンライン
94	とよかわっしょい！！	河野 利文	島根県	益田市	オンライン
95	日本青年団協議会	中園 謙二	岡山県	倉敷市	オンライン
96	臼杵観光ナビ	中野 重二	大分県	臼杵市	オンライン
97		服部 愛子	マレーシア		オンライン
98		山口 俊哉			オンライン
99		槌谷ひかり			オンライン

講演 「お手伝い(仕事)×旅で、地域のファンづくりを」

講師：永岡 里菜さん (株おてつたび 代表取締役CEO)

講師プロフィール：

1990 年生まれ。三重県尾鷲市出身、愛知県育ち。地域の魅力に惚れ込み 2018 年 7 月に「株式会社おてつたび」を設立。2018 年 1 月より季節的・短期的な人手不足等の困りごとを通じて、地域のファン作りを行う web 上のマッチングプラットフォーム「おてつたび (お手伝い×旅)」を運営。



「おてつたび」とは人手不足で困っている地域と地域で働きたい旅人を繋ぐお仕事マッチングサービスです。「誰かにとって特別な地域を創出する」というミッションを掲げて事業展開しています。登録者数は 3 万人を超え、47 都道府県に 900 カ所の受け入れ先があります。

もともと教員を目指していた永岡さんが地域に向かうきっかけとなったのが、民間企業で働いていた時に会った、全国各地の魅力あふれる地域の人たちでした。行ってみて初めてわかる地域の魅力。それに気づいた永岡さんは、務めていた会社を退社。家も解約し、夜行バスで人と人とのつながりをたよりに各地を訪ねました。そこで気づいたのが、地域の魅力と同時に課題の深刻さでした。中でも、季節的・短期的な人手不足に悩んでいる多くの事業者があることに気づきます。見方によっては、人手不足は人と

人とが会うチャンスにもなりうるのではないかと考えた永岡さんは、地域に入ってお手伝いをすることで報酬を得て、旅行にかかる経費を削減し、地域を訪れるきっかけと魅力を実感する循環をつくれないう模索をはじめます。そこでできたのが「おてつたび」でした。

永岡さんからは、「おてつたび」立ち上げにあたって以下の 4 つのことを大切にしていました。

- ・一次情報をしっかりと取りに行く。
- ・地域の方に寄り添って、どんな背景があったか考える。
- ・自分の事を少しずつ知ってもらう。
- ・まずは小さくやってみる。

また、無知だからこそ、いろいろな人から素直に学ぶことができる。わからないことは強みになると地域活動を始めたばかりの若者や学生に語りかけました。



トークセッション1「若者が育つ地域とは」

ねらい：地方自治体とともにすすめる地域活動に学びあい、行政と若者の関係のあり方や今後の課題を探る。

発表：■ひたち若者かがやき会議（茨城県日立市）

■富田林市若者会議（大阪府富田林市）

■小川町若者未来会議（埼玉県小川町）

■日野町連合青年会・ひの若者会議（仮）a（滋賀県日野町）

コメント：奥 ちひろ（(特非) 秋田県南NPOセンター職員）

辻 智子（北海道大学准教授）

近年、地域の課題解決や人材育成に向けて、若者と協同をすすめていく自治体が広がっています。このセッションでは4つの自治体からの発表がありました。

ひたち若者かがやき会議（茨城県）は2021年に策定された若者応援プラン「ひたち若者かがやきプラン」に基づいて設置され、現在、5つのプロジェクトを精力的にすすめています。また、ワークショップのつくり方など活動を推進する上での創意工夫も印象的でした。

富田林市若者会議（大阪府）は市が「若者条例」を定め、教育委員会の事業として行っています。若者たちがまちづくりに関して検討し、施策として市に提案。翌年、若者と市がともに実現を目指す流れです。若者会議OB・OG会「心はいつも富田林」（略称：こことん）も設立され、任期が終了しても継続して事業に関わる仕組みができています。一方、小川町若者未来会議（埼玉県）も同じく2年サイクルで行われていますが、1年目で立案した企画を自らが2年目で実現しています。

最後に登壇した日野町連合青年会・ひの若者会議（仮）（滋賀県）からは、スポーツ文化活動や機関紙活動といった青年



団活動と同時に、自らの関心を出発点に「部活」という形で活動をすすめていく若者会議の両方に関わる団長が、ふたつの活動内容や連携の可能性に加えて、それぞれの特徴について報告をしました。全国でもめずらしい青年団と若者会議が併存する自治体からの活動報告は、参加者から多くの注目を集めました。

これらの活動報告を踏まえ、コメントーターの奥ちひろさんが強調したのは、自治体の事業だからこそ若者自身の若者会議にしていくこと。これを踏まえ、グループのトークテーマは「誰も取り残さないために大切にしていること」でした。討議では行政との関わりやメンバーとの仲間づくりなど、各団体とも共通の課題が出されました。

トークセッション2「若者が描くまちの未来」

ねらい：学校という枠を越えて地域で活動する高校生や大学生の実践に学ぶ。
企画や仲間のつくり方のヒントを得る。

発表者：■とよかわっしょい（島根県益田市）
■未来守（東京都昭島市）
■Rural labo

コメント：前田 昇（(特非)本の学校副理事長）
島田 茂（元日本YMCA同盟総主事）

セッション1が自治体という公的機関と若者の協同に対して、セッション2は中高生や大学生などの若者による、学校を離れた自主的な地域活動に焦点をあてました。

島根県益田市から参加した「とよかわっしょい」は、益田市の豊川地区で活動する中高生のグループです。中学生15名、高校生10名が在籍し、地域の運動会や文化祭への参加など、地元密着の活動を行っています。設立は2014年と今年で9年目。ここまで継続している背景には、地域の自治組織「とよかわの未来をつくる会」やサポーターからの援助があります。

未来守（東京都）はSDGsアジェンダ達成を目指す高校生団体。2021年の設立から一年余りで都内6区市から110名のメンバーが加入しています。地域の



清掃活動や子どもたちへの無料塾などの活動報告のほか、団体の継続性などマネジメント上の課題提起も印象的でした。

最後に登壇したRural laboは地域活性に関心のある若者が全国規模で集うコミュニティとして活動を繰り広げており、長野県辰野町における古民家再生や地域活性に関心をもつ若者が全国規模でつながるJapan Vitalization Summitの開催など、若者による全国的な地域活性のムーブメントをつくることを目的に意欲的な活動を展開しています。

グループトークで投げかけられた課題は「私が一歩前にすすむために必要なこと」。各グループではともに頑張ることができる仲間がいることや、自分自身の軸や信念を持ち続けることの大切さ、とにかくやってみる姿勢などが出されました。

シンポジウム「ユースワークってなに？ウィズコロナ、若者の実践から～」

ねらい：地域に関心を持つ若者の実践に学びながら、若者が当事者として社会に参画してなにが変わるのか、また、その意味を考える。また、ヨーロッパを中心に定着している「ユースワーク」にふれながら、若者の社会参加を後押しする若者政策とはなにかを考える。

発表表：公益財団法人京都市ユースサービス協会（京都府京都市）
尼崎市立ユース交流センター（兵庫県尼崎市）
川根町青年団（静岡県島田市）

ファシリテーター：辻 幸志（(特非) こうべユースネット理事長）

ヨーロッパではすでに定着しつつある「ユースワーク」。若者たちの自主的、主体的な活動を総称するこの概念が、18歳選挙権が導入されて以降の日本でも、若者の当事者性が叫ばれ、少しずつ広がりを見せています。このシンポジウムでは、こうした現状を踏まえ、若者が豊かに暮らせる社会のあり方考える機会とするため、ユースワークの考えのもと若者支援にあたる団体と地域に根差す青年団の活動を報告いただきました。

京都市ユースサービス協会は、ユースワークの概説やヨーロッパのユースワークの事例に加え、協会が取り組むユースカウンスル京都に参加する10～20代の若者の取り組みをお話いただきました。尼崎市立ユース交流センターは、センターが取り組むユースカウンスル事業「Up to you!」をきっかけに、スケートボードを楽しみたい市内在住の若者が、市に対



してスケートボード場の設置を求めて仲間と取り組んだ事例を報告いただきました。川根町青年団は当日出席することができず、事前に収録した動画で活動を紹介し、川根町で青年団活動を続ける理由をお話いただきました。

3 団体の報告を踏まえ、ファシリテーターの辻幸志さんは「ユースワークは余暇活動。課題や教育目的が前提ではないが、生活の豊かさが地域の豊かさに直結する」と話され、ユースワークが地域力の高まりにつながることを強調されました。参加者からは「若者がやりたいことを伴走する大人の存在が必要」との声もあり、若者が活動するうえで大人とのかかわりも大切であることを発表から学びました。



トークセッション3「集まる場所のつくり方」

ねらい：地域活動を継続するときには必ず直面するのが拠点づくり。各団体のユニークな運営方法から今後のヒントを見つけ出す。

発表団体：多摩市若者会議「Michi café」（東京都多摩市）
一般社団法人NELD「夢畑（タカラバコ）」（神奈川県横須賀市）
国立市公民館青年室「コーヒーハウス」（東京都国立市）

コメント：井口啓太郎（国立市公民館社会教育主事）
岡下進一（元日本青年団協議会会長）

セッション3は活動拠点に着目し、拠点をもつ3団体（公民館、民間団体）の異なるユニークな拠点づくりや運営方法を報告いただき、若者の活動にとっての集まる場所とはどのようなものかについて理解を深める場としました。

多摩市若者会議は、「MichiCafe」の運営で展開するクラウドファンディングによる資金調達に加え、カフェやコワーキングスペースとしての利活用により、MichiCafe が若者の交流・活動の拠点になっているとお話いただきました。一般社団法人NELDからは、横須賀市内の古民家を自分たちのDIYでリフォームし運営するシェアハウス「夢畑（タカラバコ）」の取り組みをお話いただきました。国立市公民館には、40年以上にわたり行政の公的事業として開設している障害者青年学級「コーヒーハウス」の取り組みを通じて、長年にわたり継続することの意味や公的支援による運営上の特徴や課題などを報告いただきました。以上の報告を踏まえ、コメンテーターからは、3団体の拠点づくりが持つ特徴について発言いただきました。MichiCafe や夢畑（タカラバコ）。はいずれも若者の主体的な取り組みで、財源の確保や拠点の維持・

管理という点で創意工夫を凝らしながら継続しています。一方コーヒーハウスの場合は行政という公的支援であるものの、公民館という場所が若者の拠点づくりをサポートしている点で全国的に見ても極めて珍しいケースです。

グループ討議では、「あなたにとっての拠点とは」をテーマにディスカッションが行われました。参加者からは、活動拠点があることで、居場所づくりだけではなく、地域への活動のひろがりや活動そのものをつくりだす場になっているといった意見があったほか、社会教育活動として支援する公民館の役割に興味関心をひく参加者も見られ、活動拠点がうみだす可能性について意見を深めることができました。



クロージングセッション

ねらい：二日間のサミットのプログラムを振り返り、それぞれの違いから学びを整理して持ち帰る。

進行：辻 智子（北海道大学准教授）

クロージングセッションは、まずは二日間のサミットを振り返って。

冒頭に、奥ちひろさんから各プログラムへの感想やコメントを書き出した付箋を整理していただき、二日間の学びを俯瞰し、グループでの討議につなげました。討議に入る前に進行の辻先生は、若者サミットは交流すると同時に、「違いから学びあう場」であることを強調。二日間を感じた共通点と相違点をテーマとして投げかけられました。

ここでのグループ討議では、多様な若者団体の存在に気付かされたことや改めて対面で向き合うことの大切さ、自治体との関係をどう考えるか、メンバー同士の関係性などが共通のテーマとして出されました。

各グループからの発言を受け、辻先生からは、若者によるまちづくりと社会教育や民主主義に関して、以下のお話がありました。

・戦後の日本はかつて戦争に向けて国民の思想や行動を縛った反省から出発して

いること。

・民主主義を実現するための条件整備は行政の責任でもあること。

・学びの場が誰にでも保障されることが社会教育であり、それが民主主義の土台になること。

・地域での自主的な学びや活動がどうあるべきか、若者たち自身が行政と議論をし、制度をつくりあげてきたこと。

・その歴史や教訓は、私たちにとって活動に活かす価値があること。

これを踏まえ、再度グループに分かれて、今度は「私が描く地域の未来」を出しあって終了しました。



「全国まちづくり若者サミット2023」報告書

発行 一般財団法人日本青年館

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1

電話 03-6452-9012 F A X 03-6452-9026

URL <https://nippon-seinenkan.or.jp/seinenkan/>

E-mail koueki@nippon-seinenkan.or.jp
